



2012. 5. 27  
No.45



結  
yui

発行「憲法9条の会つくば」

〒305-0005

つくば市天久保 1-10-12 1-401

電話 090-3811-3753

Fax 029-857-6978

<http://peace.arrow.jp/tsukuba/>

## 憲法フェスティバル2012



5月3日の憲法記念日、水戸市千波湖畔のはなみずき公園で雨が降り続く中、憲法フェスティバルが開催され500人が参加しました。「九条の会」テントが設置され県内9条の会参加者と交流しました。



### 茨城県各地で連続講演会の提案も

あいにくの雨天の中、憲法9条の会つくば・荏崎9条の会・研学9条の会の16名の参加者を乗せたバスは、10時過ぎには会場の千波湖のはなみずき公園の駐車場に到着。会場は大型梱包車に設営された舞台両脇に模擬店のテントがずらりと並び、原爆パネルなどの展示や飲食などがコンパクトに工夫されていた。舞台の正面後方に設営された2連の大型テントでは、10時半から県内9条の会交流会が、憲法9条の会つくばの樋田さんの進行で開催された。九条の会からの要請として、呼びかけ人が元気なうちに茨城県の各地で、毎月12ヶ月連続の講演会を開こうという素晴らしい提案もされた。



12時からヒューマンファーマーズの憲法のオリジナル曲など歌声でフェスティバルが始まった。前福島大学副学長の清水修二さんの記念講演、主催者挨拶の田村武夫さんの改憲をめぐる情勢の訴えに身の引き締まる思いであった。第2回憲法川柳大会の発表では、つくば市の澤田紀一さんの作品が前回に引き続き入選となった。実行委員会の長田満江代表の閉会の挨拶で終了した。(事務局)

### 福島を悲しみを共有するために

清水修二先生(前福島大学副学長)の記念講演では、今回の原発の事故とその後の福島県民の苦悩について、日本国憲法の前文や各条文に照らして、いかに不当なものであるかを具体的に話された。

前文は「全世界の国民がひとしく恐怖と欠乏から免れ、平和のうちに生存する権利を有する」と謳っているが、今回の原発事故の恐怖や不安、避難生活での困難さは、この権利を根こそぎ奪うものだったと話された。13条の国民の幸福追求権については、子どもが家族ともバラバラにされ、原発被害につい

での意見の相違で夫婦関係が壊れ離婚に至るなど、家族のあたり前の幸福さえも保障されない現状が話された。福島大の調査では、避難している34歳以下の若い世代は半分以上が福島には戻らないと答えている。避難する家族と残る家族と確執など人心を分断する状況がストレスや苦痛を増幅させている。

25条の生存権の立場からは、避難している人々の仕事がなく、先の見通しが持てない生活になっていること、農家も4月以降の厳しい基準で今後の出荷制限が予想され、保障がない状況では生活が成り立たず自殺者が増えるなど最悪のシナリオが想定されている。今回の原発事故で避難中の死亡を含めた原発関連死は現時点で約650人とされている。

26条の教育を受ける権利からは、学力低下や外に出られないことによる心身の発達の遅れなどの問題がすでに出てきていること、また親の失業で進学できない生徒もあり、県内の私立大学の新生はどこも3~4割減。義務教育時期の子どもが1万数千人以上に避難し、今春の教員採用数は0だった。

27条勤労の義務については、農家が風評被害も含め働けず、勤労者も失業多数。原発を廃止すると原発労働者が失業するというが、現実はずでにその何倍もの人が失業している。28条の財産権についても、チェルノブイリでの移住は国の保障で行われたが、福島は自己責任で避難している。地域の産業も破壊され知的財産権が保障されなくなっている。

今回の原発事故は家族、地域社会が解体され、地域と人間の未来が奪われるという想像を絶する世界をもたらした。原発による繁栄とは、地雷原の上で宴会をしているのと同じことで、原発と日本国憲法は両立しえないことがはっきりした。今、日本国民が持つべきモラルとは、九条の会呼びかけ人の大江健三郎氏による、「次の世代を生き延びさせるために全力を尽くすこと、そのためにすべての原発を止めること」以外にない。(穂積)

## 9条の視点から

### いま広がりを見せている国民的運動をつなげて 改憲反対の世論を高めよう

え方」を発表した。これらとは別に、一院制国会実現議員連盟は国会を定数 500 人の一院制とする「改憲原案」を衆議院に提出、また大阪維新の会も維新八策の中で「憲法改正」を掲げている。

こうして改憲案が続々と出されたのは、昨年 10 月に衆参両院の憲法審査会が始動したこと、しかし改憲手続き法は、それが施行された 2010 年 5 月までに選挙年齢をめぐる関係法令や公務員の政治行為規制などの条件整備がなされておらず、手続き法の存続そのものの有効性が問われていること、などを背景に、何が何でもいま改憲ムードを盛り上げて、改憲論議を「軌道」に乗せる狙いがあるためであろう。

各派の改憲案に見られる共通項は、第 1 に現行憲法の第 9 条 2 項を改変することである。すなわち国防軍(自民党)・自衛軍(たちあがれ日本)を持ち、自衛権の発動を認め、国防軍には国際的活動及び「公の秩序を維持」するための活動(治安維持活動)や、「領土、領海及び領空を保全し、その資源を確保」する活動が期待されている。たちあがれ日本の大綱では、集団的自衛権の行使も容認している。

第 2 の共通項は、天皇の地位についての規定で、いずれも天皇を国家元首と位置付けている。その上で自民党案では、その国事行為について「内閣の助言と承認により」との条項を削除した。天皇に判断の余地を認め、象徴天皇とは違った役割を期待している。さらに、天皇の章のなかに、「国旗及び国歌」の規程を入れ、国民がそれらを尊重するよう義務付けている。時代錯誤な天皇制への回帰ではないのか。

第 3 には、憲法の目的を「個人の権利・自由を確保するために国家権力を制限すること(立憲主義)」から、「国家が国民の行動を規制すること(非立憲主義)」に転換させていること。自民党案でみると「和や家族」の尊重、「よき伝統とわれわれの国家」という表現が使われ、個人の権利や尊厳、基本的人権の尊重などは軽視されている。

他にも、緊急事態条項(大規模な自然災害だけでなく、武力攻撃や内乱をも含む)を新設していること、憲法改正案を両議院それぞれの過半数の賛成で議決できるとしていることなど、多くの問題を含んでいる。

現在、国会では改憲を掲げる政党の議席が 9 割を占める状況にある。そうした中で憲法を変えさせないためには、改憲反対の国民的世論を広げることが大事である。いま、さまざまな運動が国民的広がりを見せている。放射能汚染から子どもを守る活動、原発再稼働に反対し原発ゼロを目指す運動、TPP 参加に反対し日本の農業や医療を守る運動、日米安保条約を破棄し沖縄の基地を撤去する闘い、税と社会保障の一体化の名目で画策されている消費税引上げと年金引下げに反対する運動などである。我々の「憲法を守り、生かす」ための運動が、これらの運動を一つに結び付け、お互いに知恵と力を出し合い、大きな渦を作り上げることが求められている。

長田 満江 (憲法 9 条の会つくば代表)

大型連休最終日の 5/6(日)午後には発生した竜巻により、つくば市北条地区は大変な被害に見舞われました。心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復興を願うと共に、会としてできる限りの支援をしていければと考えます。

当会では第 1 日曜日に定例署名行動、9 日に 9 の日署名を行なっています。4 月は 1 日に定例署名、10 日に 9 の日署名、5 月は 1 日中央メーデー、反貧困メーデーでの署名、6 日定例署名を行ないました。

### つくば中央メーデーで楽しく行動

▼快晴のつくば中央公園、県南中央メーデー開会前のひと時、6 人の署名行動で 266 筆の署名が寄せられました。メーデー参加者は 900 名。樋田代表が当会の決意表明で憲法条文をアピール。東日本大震災に直結する 25 条の健康で文化的な最低限度の生活権、国家公務員労働者に賃下げを強要する政府に対する 28 条の労働団結権、97 条の基本的人権の永久の権利、そして 99 条の国会議員の憲法順守義務を強調されました。

今年のメーデーの特徴の一つは、各団体が国家公務員の給与削減問題に触れたことでした。また朗報として土浦日大高校職員の「砂岡さんを守る会」から「不当解雇の訴えが実り職場復帰できた」の報告がありました。いろんな市民団体が一つに集う昼食機敷におじゃまして、お酒をいただきながらアトラクションの演奏を楽しみ

### 「憲法 9 条の会つくば」の活動から



◆賛同人 2012 年 5 月 10 日現在  
総数 868 名 (市内 631 名)  
◆9 条署名 5 月 11 日現在 13,123 筆

#### 脱原発・東海第二原発廃炉を求める行動

震災から 1 年、つくばでは当会を含む 22 団体による実行委員会が「3.11 さよなら原発アクション&パレード」を行ない 300 名余りが参加しました。4 月には笠松運動公園で「さよなら原発 4.1 茨城大集会」が 3200 名の参加者を得て開催。子どもの未来のために全ての再稼働をストップさせ、原発に頼らない政策を訴えました。

ました。感謝！(野崎)

▼メーデーのデモ行進後のアトラクションとして、フォルクローレのグループ「おやじでポンチョス+」による「コンドルは飛んで行く」「花祭り」などの演奏があり、民族楽器ケーナの響きがとても素敵でした。また、ヒューマンファーマーズの佐藤せいごうさんとうたごえサークル「マップ」の皆さんによる「みんなで歌おうコーナー」では、会場の皆さんも楽しく歌って頂けたでしょうか。初めての試みでしたがやはりメーデーには音楽やうたごえが欠かせませんね。「来年もやりたいね」というのが演奏者たちの感想でした。(佐藤)

## 外国メディア、百里をとらえる

3年前の2月に「億の金」より平和がいい」という朝日新聞の記事が出た。我々にとって目新しい内容でもないのに軽く受け流していた。するとその記事を見た韓国文化放送の日本支局長から百里を取材したいと電話があり、6月取材、7月に放映された（韓国でも米軍基地反対の運動が激しく起こっていた）。次にそのテレビを見ていたアメリカのロスアンゼルス・タイムズ社のソウル支局長がソウルから通訳をつれて百里にやってきた。写真入りで紙面の半分の大きさに9月に掲載された。通訳の人に聞くと、ロス・タイムズはインターネットで世界に配信しているとのことであった。今度はこのインターネット情報を国際的に若手芸術家を支援している、財団法人トウキョウ・ワンダー・サイトの若者がキャッチし、ベトナム、レバノン、沖縄の若手アーティスト3人・2人の通訳・カメラマンなど8人が11月、百里に来た。そして、暮れから翌正月にかけて50日間、六本木のギャラリーで県平和委員会が貸し出した百里のパネルをつかいベトナム人のテイエン・Q・リーが「百里平和公園・未解決の地」と銘打って展示した。彼はその後、メキシコ国立自治大学の現代美術館で同じテーマで2011年6月から半年間個展を開いた。国内では2009年9月、東京新聞が半ページで「反対運動一徹53年」と題して故宮沢昭さん取材した。翌年1月にはTBSの「噂の東京マガジン」が1時間番組で百里基地・茨城空港を放映する。情報化時代の動きの速さに驚かされるばかりである。

## 百里農民の心のうち

「戦争のためには土地は売れません。平和のためならタダで差し上げます」「われわれは百姓で生活していきたいだけなんです」「おれ達、戦争体験したものは戦争は大嫌いなんだよ。二度としちゃいけないんだ。戦争のために土地なんか売れっこねーだろ。そんなこと誰だってわかりきったことじゃあねーか」「憲法に戦争しちゃあ、いけねーってちゃんと書いてあつてよ」「憲法に戦争賛美って書いてあつた。軍隊もってもいいって書いてあつた。ウソつきは泥棒のはじまりって言うけど、国家のウソは戦争のはじまりなんだよ。ウソの常識がマスコミに氾濫しているからよけい危険なんだよ」。

このように国を相手に半世紀以上もたたかっている百里農民の姿が外国メディアには不思議に思えてしかたがなかったのだろう。

戦争はいやだ、平和に暮らしたいという、世界の誰もが当たり前と思っている事を当たり前の事として「素直に」生活実践している。ここに百里農民の人間の心の豊かさや心の大きさがある。57年にも及ぶたたかいのエネルギーもごく自然に湧いてくるのだろう。誰でも思っていることが、その通り実現しないのが人間社会である。しかし、それを実現しようとするのも人間の業である。

歴史の歯車を回す深部の力は人間の素直な生活実践にある。百里農民はわれわれにこの事を教えてくれているように思えてならない。

## 鶴文乃さん一被爆体験から平和運動へ

若い世代と戦争体験を聴く会2回目は、4月14日（土）カフェ・クラウドナインで、当会が毎年参加させて頂いている「平和の鐘一振り運動」の提唱者、鶴文乃さんからお話を伺いました。鶴さんは、幼い頃長崎の原爆投下によって父親とお兄さんを亡くし、お母さん、ご兄弟達と苦労して戦後を生きてこられました。大人になっても被爆者としての戦争体験を話すことはなかったと言います。長崎での体験を話すきっかけとなったのは結婚後滞在したタイでの経験でした。タイの学生たちに日本語を教える機会を得て交流する中、意を決して長崎の体験を話すと「日本が原爆投下されたのは当然のことでは仕方ない」と言われたこと。てっきり同情されると思っていた鶴さんは唖然としたそうです。その後東南アジアは日本の占領時代、大変な被害と犠牲を出していて、そのことを日本人は知らず、原爆被害の実態をアジアや世界の人達は知らないということに思い当たり、「海外を知ろう、日本を知らせよう」という現在の平和

活動につながっていったとのことでした。

若い世代の方々からは「鶴さんのしなやかで人とのつながりを大事にし、楽しみながら進める平和活動に共感を覚える。これまでにあまり出会ったことのないタイプの素敵な活動だと思う」（H.R）「今の若い世代と隔たりを感じることもある。日本も自衛権を持って戦争をするべき時はしなくてはならない、といった若い人への街頭インタビューを見ると驚いてしまう。このギャップを埋めるのにどんな行動をしていけばいいのか。鶴さんのように身近なところから何かできないかと思った」（S.N）など感想が多数出され、11名+子ども4名の参加でにぎやかに交流しました。（S）

## 行動予定

- 6月3日(日)定例署名 12:00～ アルス前
- 8日(金)9の日署名 12:00～ 西武前
- 15日(金)事務局会議 19:00～ 松代交流センター
- 7月1日(日)うたごえ広場、定例署名 センター広場
- 9日(月)9の日署名 12:00～ 西武前
- 15日(日)定例世話人会 10:00～松代交流センター
- 30日(月)～31日(火)平和とアートの旅

—霞ヶ浦の放射能汚染を考える

## 霞ヶ浦の湖上にて



5月12日に「霞ヶ浦の遺跡を巡る」という催しに参加し、湖上の上立った。子どもの頃、大きな船にゆられ「浮き島」に海水浴に行ったことを思い出した。美しかった。そして4月1日の「シンポジウムいのちの水霞ヶ浦を放射能から守ろう」でのアサザ基金・飯島博氏の嘆きが蘇ってきた。「霞ヶ浦の放射能汚染対策はどうするんだと茨城県に聞けば、霞ヶ浦は国土交通省ですと答える。それでは国土交通省に聞けば、放射能対策は環境省ですと答える、環境省に聞けば、現在手が回りませんとなる。なんら対策はとれていない。茨城県の3分の1が依存する飲み水、農業用水、どうしたらいいんだ」切実な問題だ。霞ヶ浦には54本の川が流域から流れ込んでいる。大地に降った放射能は、必然的に河川に流れ込む、行き先は霞ヶ浦。私達は霞ヶ浦の水を飲み、農業用水として生活を共にしている。飯島氏は、市民が行動を起こすしかないとい多くの市民団体や個人に呼びかけた。

飯島さん達は、河川の観測を開始し、県や国に質問や意見、要望書を提出し、その結果を公開して市民の共有財産としている。街のデモパレードも、お母さん達の子どものを守る行動も、労働運動も形を変えつつある。主権者である国民が政府の舵を取る民主主義の到来を、私達

## ◆アーサー・ピナードさんを迎えて・講演会と作品展◆

・「ひとのあかし」—それぞれのフクシマ以後を考える  
カフェ+ギャラリー「メモリーズ」でアーサー・ピナードさんの講演会と作品展が開かれます。

特別講演会 6月2日(土) 定員各40名 全席予約制  
参加費 3500円(食事・飲物付き)

昼の部: 1:00~3:30頃 夕の部: 6:00~8:30頃  
・ひとのあかし・写真+彫刻展 齋藤さだむ 鳥山豊

5月29日(火)~7月1日(日) 月曜休廊

申込み・問合せ先: メモリーズTel/Fax029-852-8286

## インフォメーション

## ◇いのちの水霞ヶ浦を放射能から守ろう!

## 市民によるモニタリング第2回報告会

日時: 6月3日(日) 14:00~16:00

場所: 霞ヶ浦環境科学センター多目的ホール

主催: いのちの水・霞ヶ浦を守る市民ネットワーク

連絡先: 坂本繁雄Tel090-3094-7326 アサザ基金事務局Tel029-871-7166

## ◇九条の会8周年学習会—九条をめぐる動きは、いま

日時: 6月9日(土) 13:30~16:30(開場13:00)

会場: 韓国YMCA地下ホール(JR水道橋駅より徒歩10分)

参加費: 1000円

主催: 九条の会事務局 Tel03-3221-5075Fax03-3221-5076

予約は不要です。当日、直接会場においでください。

## ◇「一枚のハガキ」(新藤兼人監督) 上映会

日時: 6月16日(土) ①14:00~、②18:00~

場所: 県南生涯学習センター多目的ホール(土浦ウララ)

連絡先: Tel029-831-6288(福田) 前売 1000円当日 1500円

は本気で勝ち取らなければならない。そのことが9条を生きてという身の振る舞い方ではないだろうか。ゲンゴロウブナもうなぎも出荷自粛である現在、私達市民は霞ヶ浦と対峙し生活の問題として行動を起こすことが望まれている。(霞ヶ浦導水を考える県民会議 野口修)

アサザ基金: <http://www.kasumigaura.net/asaza/>

## 「無言館」ものがたり

窪島誠一郎著  
講談社



私がこの本を手にとったのは、少し前にこの「無言館」に行った人から、とても素敵な美術館だったと聞いたからです。「無言館」は太平洋戦争の時代、たくさんの画学生が学校を卒業してすぐ戦争に駆り出され、早く祖国に帰りたい、絵を描きたいと願いながら、それを果たせずに亡くなった人たちの作品や遺品が展示されている美術館です。この物語は館長の窪島さんが、この「無言館」を作る決心をしたことから始まります。全国の戦没画学生の家を一人で一軒一軒訪ね歩き、遺族のお話を聞いて絵を預かり、修復し、募金を募り、人々の支援を得て開館するまでのお話です。この本は字も大きくて読みやすく、小学生にでもよくわかるように書かれています。戦争のことを知らない世代にも胸に響く一冊です。読み終えると「無言館」の絵に会いに行きたくなりました。(J.I)

## ピース9ツアー2012\*平和とアートの旅

## 夏の雲を追いかけて信州安曇野の旅

7月30日(月)~31日(火)

無言館、平塚らいてうの家、いわさきちひろ美術館、成瀬政博美術館をめぐる一泊の旅です。詳細は同封のチラシをご覧ください。

7月1日(日)

11:00~13:00

つくばセンター広場

\*雨天は

つくばサイエンス

インフォメーションセンター

うたごえ広場

うたごえは平和の力  
生きるよろこび♪

## ◇つくば市母親大会

日時: 6月24日(日) 10:00~15:30

場所: 県立荃崎高校

記念講演: 香山リカさん(精神科医、立教大学教授)

連絡先: Tel029-852-4118(つくば市母大実行委員会)

## ◇被ばく者医療から見た福島原発事故

日時: 7月8日(日) 14:00~

場所: 国立病院機構霞ヶ浦医療センター講堂(土浦市)

講演: 「低線量被ばく、内部被ばくの謎にせまる~被爆者2000人を見た医師の警鐘」郷地秀夫医師(東神戸

診療所所長、原爆症集団訴訟支援ネット兵庫代表)

連絡先: Tel029-823-7930(核戦争を防止し平和を求め

る医療人の会) 定員100人(先着申し込み順)

## ◇茨城県母親大会 in 東海村

日時: 7月16日(月・祝) 10:00~16:00

場所: 県立東海高校体育館、東海文化センター他

記念講演: アーサー・ピナードさん(詩人、翻訳家)

連絡先: Tel029-824-8949(Fax8947) 県母親大会連絡会